

《企画書》

提出者 シムラアキコ

【タイトル】自己肯定感は「着物」で上がる！～世界の憧れニッポン最強の勝負服～

【概要】

年齢を重ねるうちに見た目や体形が変化し、自分に似合う服がわからなくなってきた 40 代以降の世代にこそ、着物が自己肯定感を上げてくれる最強のファッションアイテムだという新しい気付きを与える内容です。なぜ着物を着ると自己肯定感が上がるのか？具体例を挙げつつ、着物を着るだけで実はたくさんさんのメリットがあること、着物があなたの人生の応援をしてくれることを伝えます。着物は 1000 年も続く日本独自の民族衣装、世界に誇れる文化です。現在、世界中で空前の日本ブーム！日本は世界の憧れの国でありそのカルチャーに注目が集まっています。それなのに日本人が着物のことをよく知らず、着られないのは本当にもったいない！いまこそ着物の魅力を今までとは違った角度から知り、日本人としての誇りや自己肯定感を着物によって爆上げするムーブメントを起こしたいと考えています。

【想定する読者ターゲット】

- ① 40 代～60 代の女性
- ② 揺らぎ世代（更年期）で自分に自信を無くしている人
- ③ タンスに着物を眠らせている人
- ④ 世界進出を目指している人
- ⑤ 新しい自分の魅力を発見したい人

【構成案】

第 1 章 着物に救われた未来への絶望

- ・人より 10 年早く訪れた更年期障害
- ・着物との再会、無価値観からの脱却
- ・ご縁と幸運を引き寄せ広がる世界

第 2 章 着物で自己肯定感が爆上がりする理由

- ・洋服迷子になっていませんか？
- ・体型コンプレックスを美しく隠す
- ・ただ着ているだけで特別な存在
- ・落ち着いた優雅さをまとうワンランク上の自分へ

第 3 章 着物が与えてくれる勇気

- ・親子三代、100 年着つなぐ絆
- ・「着るお守り」着る人の幸せを願う想いの重なり
- ・「きものがたり」を着つなぐ喜び

第 4 章 最強の勝負服で世界進出

- ・エネルギーを身にまとう
- ・どんなドレスにも負けない！着る絵画、歩く芸術品
- ・モノ・人・絆を大切にする日本文化が世界平和を創る

第 5 章 着物へのハードル・罪悪感を手放そう

- ・着物へのハードルとその解決策
- ・タンスに眠らせている着物への罪悪感を手放す
- ・乗り越えた先にある未来

終わりに

【サンプル原稿】

第2章 着物で自己肯定感が爆上がりする理由

□洋服迷子になっていませんか？

私は40代に入り、気が付くと今まで大好きだった洋服がどれを着てもしっくりこなくなっていました。身体のシルエットが以前と比べると何か違う、顔色もなんだか冴えないので、今まで似合っていたはずの色もピンとこない。そしてさらに困ったのはずっと好きだったファッション誌がモデルの卒業、新モデル登用で内容が一変した瞬間、自分に合わなくなっていました。

こうなると一層何を着たらいいのかわからなくなり、洋服迷子に陥りました。子供の頃から大好きだった洋服に興味を失くし、流行りもわからず、シンプルで色味のないベーシックカラーのルーズなシルエットのものを着まわすようになっていました。

これをお読みのみなさまにも似たような経験はないでしょうか？

□体型コンプレックスを美しく隠せる

女性は40代以降、特に更年期を迎えると代謝が落ちて肉付きがよくなり、若い頃とは体形が変わってきます。特に、お腹周り、二の腕、お尻、脚の太さなど……。あとは肩まわりや顔の大きさも気になりませんか？私は全部が気になります。洋服ですと、少しでも痩せて見えるように黒っぽい服で、お腹が目立たないようにダボっとしたシルエットで、気になるお尻までしっかり隠れる丈のチュニックなどでごまかしがちですが、これを着ると一気にオバさん臭くなってしまいます。

それに比べ、着物はカタチが決まっているのでデザインで迷うことはありません。身体の大部分を大きな布で包み、出ている部分は首、手首、足首と比較的ほっそりした「首」部分から先だけです。気になる二の腕は大きな袖の中、脚も裾の中で太さまではわからないですし、お尻やお腹は帯の締め方、お太鼓の垂れの位置で、ある程度はごまかせます。

肩や顔の大きさも、着物の衿合わせなど、着付けの工夫によって、さほど大きさを感じさせない着こなしができたりもします。着物は布の面積が広いので、洋服ほどに顔の大きさを感じさせないのです。そのため、昔から、着物には顔が大きい人の方が映えると言われていました。

洋服で無理矢理に隠して体形をごまかすのと違い、着物は見せたくないところを上手に隠してくれつつ、露出している部分は少ないのに、なぜか上品な色気も感じさせ、私たち日本人女性を美しく見せてくれる優れたコスチュームなのです。

□着ているだけで特別な存在

着物を着ている人を見かけると、素敵だなあとつい目で追ってしまう、という経験はありませんか？実際、着物は着て出かけていくだけで、人からの注目を集めます。そして、知っている人からですが、まったく知らない人から「素敵ですね」などと声をかけられることもよく起こります。

特にご年配の方は着物を着ている人を見かけると、嬉しそうに目を細めて笑顔で話しかけたりします。また外国人観光客も着物が大好きです。観光地などで着物を着ていると、写真を撮らせてほしい、と外国人の方から頼まれることもあります。

着ているだけで誰かに褒めてもらえるのはとても嬉しいですね。人からの注目と称賛はどんな高価

な美容液よりも美容効果があると思いませんか？

また着物でランチや食事に行くと、お店の方が（洋服の方へはしないのに）さりげなくナフキンをくれたり、イスを引いてくれたり、電車の中では席を譲られたりすることもあります。ちょっとしたことですが、周りの方が着物を着ているというだけで気を遣ってくれたりします。それを期待しているわけではないですが、自分を大切に扱ってもらえるのは嬉しいですね。

私が驚いた経験は、娘の卒業式で他の保護者は階段を使うように、と誘導されていたのに、着物を着ていた私には、先生がわざわざエレベーターホールまで案内して「お着物では大変ですのでこちらをお使いください」と、まるでVIPかのような対応をされたことがありました。

他にもイベントや結婚式、パーティーなどの華やかなシーンに着物で出かけると、主催者がとても喜んでくれることがあります。特に結婚式では、着物で出席すると、おめでたい場がより華やかになって嬉しい、と新郎新婦のご両親がわざわざお礼を言いに駆け寄ってくれることがありました。

着物は一般的に準備、着付け、後片付けまで大変で面倒。着ていて苦しいし、お金がかかる！というイメージがあります。そんな大変さを厭わずに、わざわざこの会場まで、華を添えるために着物を着てきてくれた、ということに感謝されるのだと思います。「この場を大切に扱ってくれてありがとう」という相手の気持ちが伝わってきます。それだけ誰かが喜んでくれるというのは、やはり嬉しく、私にとっては着物を着るモチベーションとなっています。

このように、ただ着物を着ているというだけで、たくさんのメリットと特別な存在として大切に扱われることがあるのです。だんだん、着物を着ないと損なのかも？という気持ちになりませんか？

でもまだまだ着物の持つチカラはこれだけではないのです。これはほんの序章にすぎません。

[以上となります。よろしく願いいたします。]